

平成24年度亀岡市立病院運営委員会議事録（要旨）

日 時 : 平成25年1月18日（金） 午後2時00分～午後3時50分

場 所 : 亀岡市立病院 第1会議室

出席者 :

■■■■、■■■■、■■■■、■■■■、■■■■、■■■■
■■■■、各委員 ※欠席=■■■■

病院職員=坂井茂子、上田和茂、川口小夜子、野中平、小笹和也、赤間將

<会議内容>

○ 開会あいさつ = 坂井病院事業管理者

○ 委員・職員紹介 = 赤間病院総務課長

○ 会長あいさつ = ■■■■会長

○ 議事説明 = 野中管理部長

○ 質 疑

■■■■ ・病診連携を公立病院として大切にしてほしい。
・市立病院で紹介拒否をされ、シミズ病院へ頼んだ実例があり、公立病院として機能していないのではないかと。
・理由を聞くと、高齢者で急性期の患者ではないということであり、頼りにできず・不信感が募る。
・医師が疲弊し、疲れているのではないかと。
・ドクターが不足しているようだが、紹介拒否件数がどれだけあるのか知りたい。
・公立病院として不採算であっても経営改善をし、地域包括ケアの考えのもとに安心して病院へすぐに行けるようにしてほしい。

■■■■委員 ・癌末期であるのに市立病院を出てくれと言われた家族から直に聞いたことがある。

■■■■委員 ・市立病院は急性期病院であるということだろう。
・社会的入院は悪と言われるが、公的病院としては必要かもしれない。
・高齢者は病院を頼りにしている。

■■■■会長 ・医師の疲弊は、どこの病院でも外来患者や入院患者が多い状況である。
・医師の数は国の基準があるはずだが、市立病院ではどうなのか。

上田病院長 ・医師の基準は満たしており、非常勤職員でも対応している。
・外来は非常勤、入院は常勤医師での対応を基本としている。

■■■■副会長 ・資料を見る限り平成24年度経営状況は悪いように考えるがどうか。

野中部長 ・平成24年度の資料を用意しており、後に説明をする。

- 委員 ・市立病院の悪いことは聞かないが、地域診療の体制をもっと充実してほしいと思う。
- 坂井管理者 ・畑野診療所の医師体制で相談を受けたことがあるが、救急車でも30分から1時間を要し、市立病院で往診するにも医師が確保できない実態がある。
- 委員 ・ドクターの疲弊は、常勤は入院に専念し、内科からの紹介で外科の件数は増やせばよいのではないかと。
- 上田病院長 ・医師は入院医療を中心にして外来の負担が大きく、当直や検査・予防注射・人間ドックなどで疲弊している面はある。
- 委員 ・若い先生が少なく、長く居る医師の負担が大きく内向的な考えをしているので十分に役割を果たせていないのかもしれない。
- 委員 ・以前は府立医大の若い医師が当直をしていたが今は望めない状況である。
- 委員 ・全部適用の病院であるので、医師の手当を大きくすればどうか。
- 坂井管理者 ・民間サイトも利用して手当も考慮しているが、医師の安定確保は難しい状況である。
- 委員 ・全部適用も一部適用も変わらないので府立医大に依存するのではなく、独法（独立法人）への移行も考えればよいのではないかと。
- 坂井管理者 ・独法になれば評価委員会の評価を受け、民営化を歩むことが考えられるので、公立病院としての役割を果たしていきたいと考えている。
- 委員 ・外部のアンケート調査を実施して市民の意見を取り入れればどうか。
- 委員 ・市民は市立病院ではなく市民病院として、民間ではない公立病院としての役割を期待している。
- 委員 ・市立病院では災害時の対策マニュアルを作成しているのか。
- 坂井管理者 ・亀岡市で災害時の対策計画を策定している。
- 委員 ・亀岡市と医師会が協約をして、災害時には診療所の医師や看護師が市立病院に集まることになっていると聞いている。
- 野中部長 電子カルテシステムの導入、地方公営企業会計制度の見直しについて、資料を説明。 ※質疑なし。

○ 副会長＝閉会あいさつ